

次代の人材育成に向け町がタイ、旭川の2大学と提携

東川町はタイ王国スアンズナンター・ラーチャパット大学（バンコク都、ルーデッチ・ガードウィツシャイ学長）、そして私立旭川大学（山内亮史学長）と教育交流などを進める覚書協定、包括協定をそれぞれ交わしました。国内外の大学との提携を通して教育的側面からさまざまな交流促進を進め、活性化を図ることが狙いです。

タイ・ラーチャパット大学と覚書 書き合意

4月19日タイ・スアンズナンター・ラーチャパット大学のガードウィツシャイ学長のほかソムデッチ・ルンスリサワット、シュティカーン・スウィブン両副学長、プラティープ・ワチートンラタナ科学経営学部長ら同大学から7人が来庁。東川との合意覚書きを交わしました。



これによって東川町は、町内日本語教育機関への日本語留學生の受け入れ促進、日本国内の大学への留学希望に対して橋渡しの促進に積極的に取り組む、人材開発、科学、芸術、文化に関する情報交換と活動、奨学金支給の取り扱いを進めます。

町はこれを機に、海外との交流活性化によって町の国際化を図るのが狙いです。松岡市郎町長は「この提携を契機に、日本語を中心とした分野で交流が盛んになることを期待します」と歓迎。ガードウィツシャイ学長は「タイはASEAN地域の中核を目指しています。そのため教育、外国語、文化研究、テクノロジー研究を進めたい。良い人材が必要で、東川とは日本語教育を推進して国際交流の見本になります。日本とタイの架け橋としていろいろな分野に交流が広がることを期待します」と今後の交流拡大に期待を表明しました。町では今後、同大学からの特別奨学

生を当面年間2人程度受け入れることを考えています。バンコク市内にある民間委託の東川事務所を通じて日本語留學生も一層積極的に募集展開し、東川町立日本語学校、旭川福祉専門学校日本語科への留學生も積極的に受け入れ予定で。

町と旭川大学が包括協定

旭川大学との包括協定締結は4月18日に行いました。



山内亮史学長、信木晴雄副学長、藤原潤一短期大学部副学長ら6人が来庁

意締結第1号は、今年2月マハーサーラカム県の総合大学、マハーサーラカム・ラーチャパット大学（ソムシャイ・ウオンカセム学長）との間で基本合意を交わしています。

ラーチャパット大学は、もとは教員養成を目的とした高等教育機関（教育大学）で、現在国内40校を配する国立地域総合大学（ラーチャパット・インスティテュート）。卒業生は極めて優秀と評価が高いそうです。

し、両者が連携包括協定を結びました。教育・文化交流の推進と地域交流の情報などを相互に共有します。外国人留學生の留学希望者に対して受け入れの円滑な連携を図るなど、東川町と旭川大学両者で情報共有、教育機能などを相互に連携、活用するもの。

「大雪旭岳源水」がモンドセレクション最高金賞

（株）大雪水資源保全センター（東川岩藤正和社長）が製造、販売している大雪山旭岳の天然水、「大雪旭岳源水」ブランド商品（500ミリ、2リットル）が国際品質機関のモンドセレクション（本部・ベルギー王国ブリュッセル市）でみごと最高金賞（グランドゴールドメダル）を受賞しました。授賞式は5月30日、ハンガリー・ブダペスト市で開かれます。



資源活用策の一環。コープさっぽろ（札幌）、東川町、東川町農業協同組合三者が資本金5千万円で製造・販売会社を設立して事業化しました（2012年3月発足）。主にさっぽろ市民生協店舗、首都圏内のデパートで販売中。中国・香港、上海にもサンプル出荷しています。

昨年11月、モンドセレクションに「大雪旭岳源水」の500ミリ、2リットルボトル入り商品の評価審査申請。総合評価90点以上に与えられる最高金賞を受賞しました。同センターでは今後、モンドセレクション最高金賞の認証マークを入れた新ボトルに商品を順次切り替え、販売拡大に期待をかけています。

「大雪山旭岳源水」の販売は、魅力ある東川農業実現として進めている水

は種祭で今年の「メ作りスタート

4月15日、（株）東川農業振興公社で水稲種もみのは種祭を行い、今年の米作りがスタートしました。東川町農協（樽井功組合長）が主催。農業生産者と買い付け業者代表ら関係者約30人が出席しました。



種もみ5キログラムずつを育苗用成苗ポットに種まきし、松岡市郎町長、樽井組合長らがガラス温室にポットを移設しました。1カ月後の5月10日過ぎから本格的な田植えシーズンを迎えます。作付けする水稲品種は「ゆめぴりか」「ななつぼし」「ほしのゆめ」「きたなつぼし」。

数年前まで北海道米の代表品種だった「ほしのゆめ」は2割程度の作付けに減り、代わって新品種「きたくりん」が登場してきました。同公社では、町内10軒分と北海道神宮神饌田（しんせんでん）に作付けする水稲約200キログラムの種もみを育苗します。

新登場、幼児センターにボルダリングウォール

幼児センター「ももんがの家」（伊藤和代園長）に壁上りを練習できるボルダリングウォールが4月から新登場しました。「簡単だよ」と、子どもたちは早くも挑戦を競って大喜び。ボルダリングウォールは、人工的に作った岩（ボルダー）を登るクライミング用の練習用人工壁のこと。近年ボルダリングファンが多くなり、ももん

がの家にもついに登場しました。プレールームの一部を使って幅3・6メートル、高さ2・5メートルの木製の壁を作りました。赤、黄、緑、ピンク、青の大、小約150個の5色の人工ボルダーを自由に配置することが出来ます。床には二重にウレタンマットを敷いているので、万一の時にも大丈夫。

